

きょう み しん しん

興味津々、

はじ 初めてのクリスマスの物語 ものがたり

マリヤは、若くて美しい少女だった。そして、大工のヨセフと結婚する約束をしていた。2人は北イスラエルのナザレという村に住んでいた。

結婚式も近づいたある夜のこと、天使がマリヤに現れた。それも、ただの天使ではない。とてもえらい天使だ。ガブリエルという、天使長だよ。天使長というのは、大勢の天使の最高司令官なんだ。大勢の兵隊を率いる軍隊の最高司令官みたいだね。(聖書には、神様がとても大切なお告げをするために天使長のガブリエルをつかわしたという話がいくつか書かれているよ。)

天使はマリヤに現れると、こう言った。「おめでとう、恵まれた方! 主があなたと共におられます!」¹

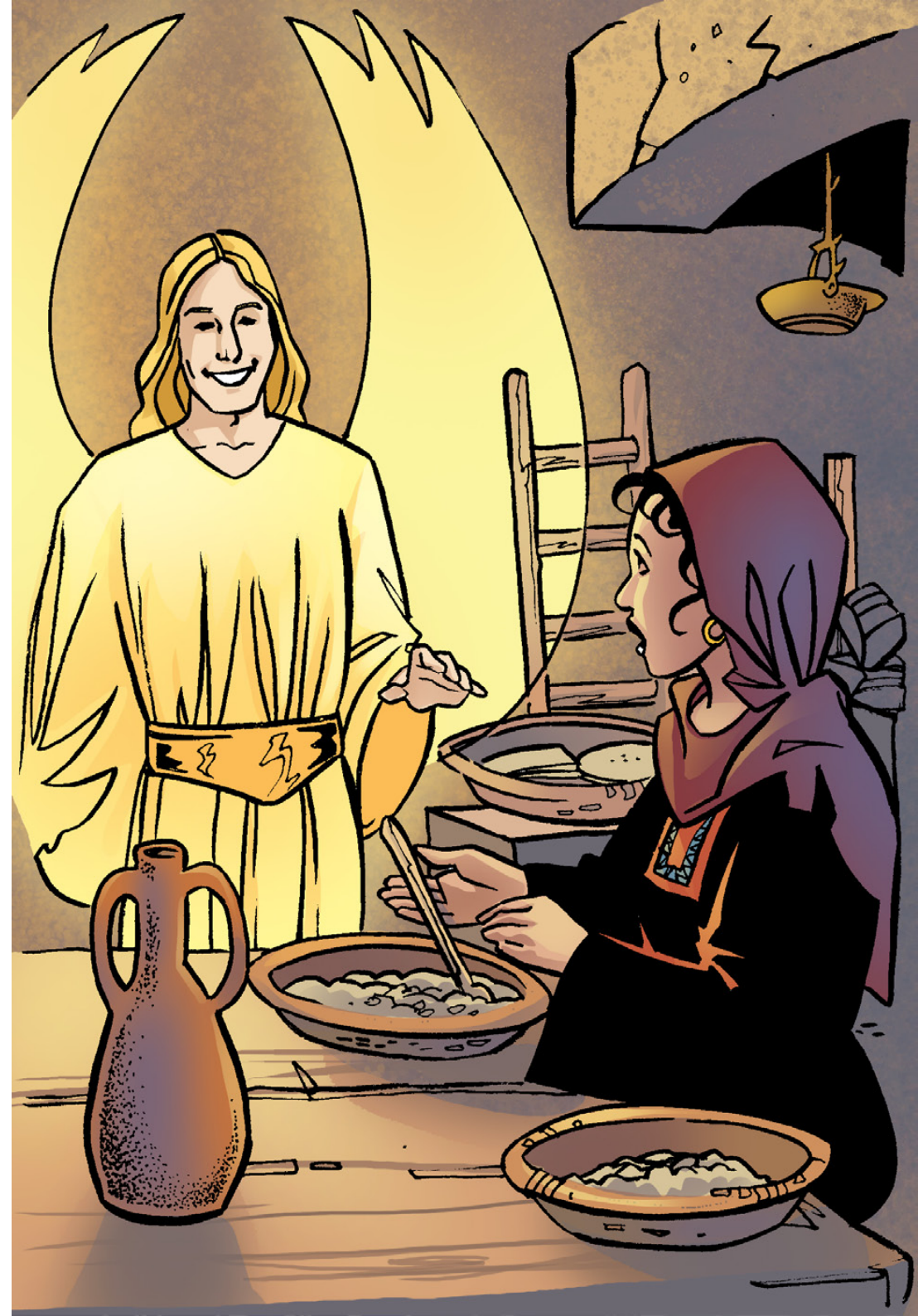
(いったいこの人はだれなの? それに、何のことを言っているのかしら?) とマリヤは思った。天使が現れるなんて、ふつうのことじゃないからね。だから、マリヤがどんなにおどろいたかは、想像できるよね。

ガブリエルは言った。「こわがることはない、マリヤよ。神はあなたを祝福したいのです。あなたはじきに身ごもって、男の子を産むでしょう。その子をイエスと名づけなさい。彼はすぐれた者となり、いと高き方の子と呼ばれます。また、神である主は、彼にその父ダビデの王位をお与えになります。彼はとこしえにヤコブ(イスラエル)の家を治め、その国は終わることがありません。」²

天使長ガブリエルが話していたのは霊的なイスラエルのことで、信仰によって神の国の一員である人たちのことだよ。イエス様を神様のみ子であると信じる人にとって、イエス様は王様なんだ。

マリヤは天使にたずねた。「どうしてそのようなことになりえましょう。わたしはまだ男の人を知らないのに。」

天使は答えて言った。「聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたをおおいます。それゆえ、生まれる者は、神の子と呼ばれます。」³



マタイによる福音書には、主の天使がヨセフに現れて、将来の妻がもうすでに身ごもっているというショッキングな知らせにヨセフを備えさせたことが書かれている。自分の婚約者がほかの人の赤ちゃんを産むんだとわかったら、男の人にとってはかなりの悩みの種になるだろうからね。たいがいの人は、きっと婚約をやめるだろう。ヨセフもきっと、マリヤとの婚約をやめることを考えていただろうね。だけど、神様はヨセフにある夢を見せられた。夢の中に主の使いが現れたんだ。

「ダビデの子ヨセフ。おそれないであなたの妻マリヤをむかえなさい。その胎に宿っているものは聖霊によるのです。

マリヤは男の子を産みます。その名をイエス（「救い主」という意味）とつけなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です。」⁴



イエス様を身ごもるとマリヤに話した後、天使はほかにもおどろくような知らせを教えてくれた。「もう1つ、良い知らせがあります。不妊*の女と言われていたあなたのいとこエリサベツも、老年ながら男の子を身ごもっています。神には、なんでもできないことはありません。」⁵（*不妊：子供ができないこと）

エリサベツが年を取っていて、もう子どもを身ごもれないことは、マリヤも知っていた。だから、エリサベツも子どもを産むのだと天使から聞いて、マリヤはびっくりした。

このナゾめいた、かつすごい知らせを聞いて、マリヤは天使に答えた。「わたしは主のはしためです。あなたのお言葉を全部信じます。」⁶



その後、すぐ、マリヤはエリサベツのところにとまりに^い行った。ザカリヤとエリサベツの^{いえ}家に^つ着くと、自分の^{じぶん}人生に^{じんせい}起きていることをエリサベツに^{はな}話もしない^おうちから、おどろくようなことが^お起こった。

エリサベツがマリヤの^きあいさつを^こ聞いたとき、その^こ子が^{たいない}胎内*で^おどった。エリサベツは^{せいれい}聖霊に^み満たされ、^{おおごえ}大声を^いあげて^い言った、「あなたは^{おんな}女の中^{なか}で^{しゅくふく}祝福された^{かた}方、あなたの^{たい}胎の^み実も^{しゅくふく}祝福されています。主の^{しゅ}母上^{ははうえ}がわたしの^きところに^き来てくださるとは、なんという^{こうえい}光栄でしょう。ごらんさい。あなたの^{こえ}あいさつの^{こえ}声^{みみ}がわたしの^{はい}耳に^{とき}入った時、子供が^{こども}胎内^{たいない}で^{よろこ}喜びおどりました！」⁷
(*胎内：おなかの中)

まるで、赤ちゃんのヨハネがイエス様の^{さま}母親の^{ははおや}声^{こえ}を知^しっていたみたいだね。

エリサベツは、こう^い言ってマリヤを^{しゅ}はげました。「主が^{かた}語られたことは^{かならず}必ず^{じつげん}実現すると^{しん}信じた人は、何と^{ひと}幸いな^{なん}こと^{さいわ}でしょう。」⁸



次の^{つぎ}節は、神の^{かみ}み子^こイエスの^{ははおや}母親となれて^{しあわ}どんなに^{うつく}幸せかを^{うた}美しく^{あらわ}表した^{せいぼ}ものだ。聖母マリヤの^{さんか}賛歌、またはマリヤの^{うた}歌とも^よ呼ばれている。

「わたしの^{たましい}魂は^{しゅ}主を^{れい}あがめ、わたしの^{すく}霊は^{ぬし}救い主である^{かみ}神を^{よろこ}喜びたたえます。
身分の^{みぶん}低い、この^{ひく}主の^{しゅ}は^めしためにも^と目を^い留めて^{もの}くださったからです。今から^{いま}後、^{のち}
いつの^よ世の^{ひと}人もわたしを^{さいわ}幸いな^{もの}者^いと言うでしょう。」⁹



マリヤは、エリサベツのところに三か月ほど滞在してから家に帰った。さて、エリサベツは月が満ちて、男の子を産んだ。

ルカによる福音書の第1章には、エリサベツが子どもを産む前に何が起こったか、もう少しくわしく書かれている。エリサベツと夫のザカリヤには子どもがおらず、2人はそのことで非常に悲しい思いをしていた。ある日、ザカリヤが神殿で祭司の務めをしていると、主の天使がザカリヤに現れ、エリサベツが子どもを産むと告げた。



だけど、ザカリヤは信じなかった。エリサベツは子どもを産むには年を取りすぎていたからだ。それで天使はザカリヤの口を利けなくし、こう告げた。

「これらのことが起こる日まで、あなたはものが言えなくなります。わたしの言葉を信じなかったからです。わたしの言葉は、その時が来れば実現します。」¹⁰

もちろん、エリサベツが妊娠した時、ザカリヤは天使が言ったことを信じた。実際に起こったからね。

神はザカリヤに、赤んぼうを「ヨハネ」と名づけるように告げた。だけど、そのころは生まれた子供には父親の名前を付けることになっていたんだ。赤んぼうが生まれると、エリサベツは言った。「彼は、ヨハネという名前にしなければ！」すると、それを聞いていた人たちが言った。「それはちがうよ！父親はザカリヤだから、赤んぼうの名前もザカリヤにしないと！」

そこで、ザカリヤはこう書きつけた。

「その名はヨハネ！」

その時だ。神に告げられたことに従って、赤んぼうの名前をヨハネにするという自分の信仰をきっぱりと表した時、神はザカリヤの口を開かれた。ザカリヤは、また話すことができるようになったんだ。

ザカリヤは聖霊に満たされ、イエス様についての美しい預言をした。神が約束されたように、力強い救い主がご自分の民を救いにやって来るとね。また、自分の子ヨハネについても、大人になったら人々に罪のゆるしによる救いを知らせ、救い主のために道を備えるという預言をしたよ。それから、霊的な暗やみにいる人たちに命と光と平和をもたらすために、イエスが地上にやって来るともね。





さて、ヨセフと マリヤは ふたり 2人とも ナザレに 住んでいたけど、何百年も 前の
預言者 ミカの 預言によると、救い主は ベツレヘムで 生まれることになっていた。

「エフラタの ベツレヘムよ。あなたは ユダの 氏族の中で 最も 小さい ものだが、
あなたの うちから、わたしのために イスラエルを 治める 者が 出る。その 出る
ことは、昔からの 定めである。」¹¹

さて、マリヤが まさに イエス様を 産もうとしていたころ、ローマ帝国の 皇帝
カエサル・アウグストが、ローマ帝国に 住む 人々を 全員 数えるようにとの 命令を
出した。それで、マリヤと ヨセフは その 人口調査のために、ベツレヘムへ 旅を
しなくては いけなかった。そこが ヨセフの 故郷だったからだ。

彼らは 南の ベツレヘムへ 向かって、長〜い 長〜い 旅を しなければならなかった。
その ようすを えがいた 絵では ふつう、マリヤが ロバに 乗っているよね。だけど、
たとえ ロバに 乗っていたとしても、長い 旅には ちがひ なかった。ロバは、一歩
ある 歩くごとに ゆっさゆっさと ゆれるんだ。だけど、少なくとも 歩くよりは、楽だった
だろうね。

さて、ヨセフと マリヤは、ぎりぎりで ベツレヘムに 着いた。ちょうど その時、
マリヤの 陣痛が 始まったからね。まさに 赤ちゃんが 生まれようとしていたんだ！





そこには ^{あか}赤ちゃんを ^う産むための ^{びょういん}病院も なかったし、
お産を ^{さん}助けてくれる ^{たす}お医者さんや ^{いしや}助産婦さん ^{じょさん}も いな
かったんだよ。それだけじゃ ^{ない}。とまる ^{ばしょ}場所だって、
なかったんだ。きっと、ヨセフの ^{しん}親せきは ^すもう
そこには ^す住んで ^いいなかっただろうし、もし ^す住んで
いたとしても、^{かれ}彼らが ^へとまれるような ^や部屋は ^{ひと}なかった
だろうね。だって、ものすごく ^{ひと}たくさんの ^{おな}人たちが
同じ ^{とき}時に ^{かえ}ベツレヘムへ ^き帰って来ていたんだもの。

それで、ヨセフは ^{やど}宿屋の ^{とびら}扉を ^あたたき、^へ部屋が ^あ空いて
いないかと ^{たず}ねた。

^{やど}宿屋の ^{しゅじん}主人は、^{しん}信じられないといった ^{ひょうじょう}表情で ^{わら}笑った。
「^へ部屋だって？ ^{まさ}まさか！ ^{ぜいきん}税金を ^{はらい}はらいに ^{じゅう}そこら中
から ^{ベツレヘム}ベツレヘムに ^きやって来た ^{ひと}人たちが ^{いっ}いっぱい
なのに、^あ空いてる ^へ部屋なんて、^あありませんよ！ ^{まんいん}満員
^{おんれい}御礼です！」

「でも、^{つま}妻が ^{いま}今にも ^{あか}赤んぼうを ^う産みそうなんです。
どこかに ^{ねが}ねかせなくては！」 ^{ヨセフ}ヨセフは ^{しきり}しきりに
^{ねが}願った。

^{やど}宿屋の ^{しゅじん}主人は、^{おち}マリヤを ^いあわれに ^{おも}思って ^い言った。
「^{うま}そうだね、^{うま}馬屋になら、^{こん}今夜 ^{とま}とまっても ^{いい}いいよ！」
たとえ ^{どうぶつ}動物たちと ^{いっ}いっしょでも、^{すく}少なくとも ^{さむ}寒さや
^{あめが}雨風を ^{しの}しのぐことは ^{できる}できるからね。

その夜、マリヤは ^{うま}馬屋で ^{あか}赤んぼうを ^う産み、^{ぬの}布に
くるんで ^か飼料 ^{おけ}おけの中 ^{なか}に ^かねかせた。^か飼料 ^{おけ}おけが
^な何か、^し知っているかい？ ^{ふつう}ふつうは ^き木で ^{できた}できた、
^か家畜 ^かが ^{えさ}えさを ^た食べるための ^{えさ}えさ入れだよ。そこに
^ほ干し草 ^{くさ}や ^{こもつ}穀類 ^いを入れるんだ。¹²



さて、ちょうどイエス様が生まれたころ、外の丘の方では羊飼いたちが羊の番をしていた。そこへ1人の天使が現れて、こう言ったんだ。「今、わたしはこの民全体のための素晴らしい喜びを知らせに来ました。きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。あなたがたは、布にくるまって飼葉おけに寝ておられる乳飲み子を見つめます。これが、あなたがたのためのしるしです！」¹³

そのおどろくばかりの知らせの後、ものすごく明るい光が空中に広がり、天使の群れが現れて歌い始めた。「いと高きところでは、神に栄光があるように！ 地のうえでは、み心にかなう人々に平和があるように！」
羊飼いたちはこの知らせを聞いてとても興奮し、天使が消えると、こう言った。「救い主に会いに行こう！」



そして、羊飼いたちはベツレヘムへ出かけて行き、何らかの方法でイエス様を見つけた。かみさまかれみちび神様が彼らを導いてくださったんだね。
羊飼いたちは、馬屋で飼い葉おけに寝ているイエス様を見つけたのだから。マリヤとヨセフはきっと、とても喜んだにちがいない！
天使が羊飼いたちに現れて、救い主イエス様が生まれたことを告げられたと聞いて、とても興奮しただろうね！¹⁴

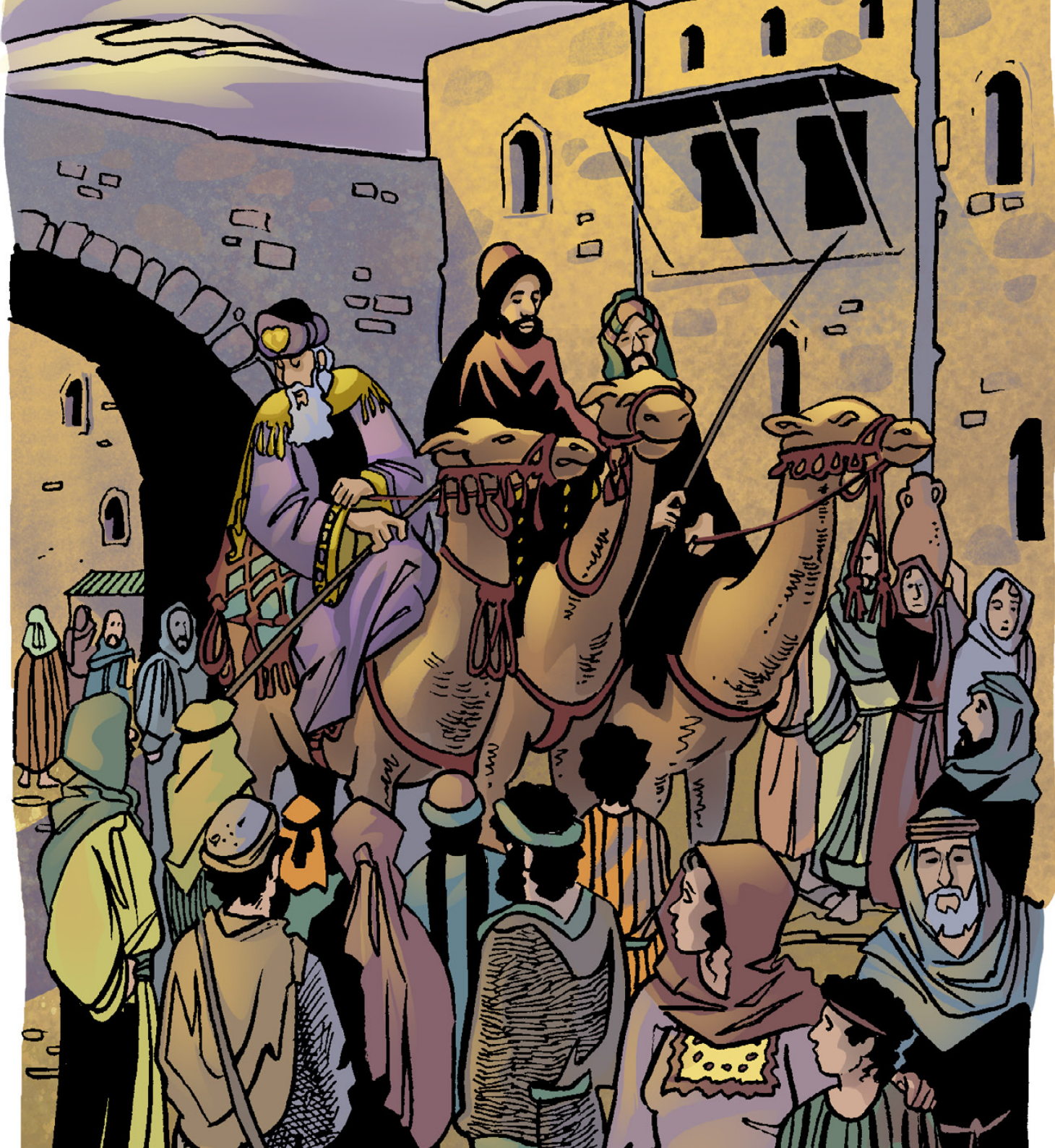
さて、その後 ヨセフと マリヤと 赤んぼうの
イエス様は、ベツレヘムにとどまった。

ヨセフは腕のいい 働き者の 大工だったから、
きっと 家族を 養うために 仕事を見つけただろうね。
ホテルや 宿屋には いつも 直さなくちゃ いけない
部分があるから、初めの内は 宿屋の 主人のために
働いたことだろう。宿屋の 主人は きっと ヨセフに
仕事を 与えて、彼らが 家を見つけるまでの間、
馬屋に いさせてくれたんだろうね。

はるばる メソポタミヤから 博士たちが やって
来たのは、イエス様が 生まれた 約2年後だ。彼らは
占星術師だったので、星を 読んでいた。星を 調べて
いた時、神様が ユダヤに 偉大な 王様が 生まれたことを
示された。それが だれかは 知らなかったけどね。

神様は 星を使って 博士たちを 導いておられたが、
明らかに、自分たちの 理解力に 頼って こう 思った
んだろう。「あの 星が わたしたちを 導いている
ユダヤの 王が どこに おられるか、エルサレムの 王に
聞いてみよう！ ヘロデ王なら、偉大な 王が どこで
生まれたかぐらい、知っているだろうから。」
それで、星を たどり続ける代わりに、ヘロデ王に
聞きに行ったんだ。

ヘロデ王は 思った。（何て ことだ！ わし以外の
王が この国に 生まれたって？ 王は、この わしなののに！）



それから ずる賢い^{がしこ} じゃ悪^{あく}な 王^{おう}ヘロデは 考^{かんが}えた。(わしも、その王^{おう}が どこに いるか、知^しりたいものだ!) そして 博^は士^{かせ}たちに こう 言^いった。「ユダヤの 王^{おう}を 見^みつけたら、
わたしにも 知^しらせてほしい。わたしも、彼^{かれ}を おがみに 行^いくから!」



だけど、ヘロデ王^{おう}は ユダヤの 王^{おう}を
おがみに 行^いこうなんて、全^{ぜん}然^{ぜん} 思^{おも}って
い^いなかつた! 殺^{ころ}そうと して^はいたんだ!

ヘロデ王^{おう}は 自^じ分^{ぶん}の 博^は士^{かせ}たちを 呼^よび
入^いれて 言^いった。「この『ユダヤ人^{じん}の
メシヤ』だとか いうのは、じっさいの
と^うころ、ど^うこで 生^うまれることになっ
て^るんだ?」

彼^{かれ}らは 答^{こた}えた、「聖^{せい}書^{しよ}の 預^よ言^{げん}に
よ^よりますと、彼^{かれ}は ベツレヘムで
生^うまれることにな^なっております。」

「ユダ^ちの 地^ち、ベツレヘムよ、おまえは
ユダ^{きみ}の 君^なたち^{なか}の 中^なで、決^{けつ}して 最^もち
小^ちさい もの^では ない。おまえの 中^{なか}から
ひ^{ひと}りの 君^{きみ}が 出^でて、わが民^{たみ}イスラエルの
牧^{ぼく}者^{しや}と なるであらう。」¹⁵

さて、博^は士^{かせ}たちは 再^{ふた}び 例^{れい}の 星^{ほし}に
導^{みちび}かれて、ベツレヘムに やっ^きて来た。
そ^{そこ}で イエス様^{さま}を 見^みつけ、持^もって^たきた
3^{みつ}つの 贈^{おく}り物^{もの}を ささ^さげ^たんだ。

家^{いえ}に 入^{はい}てみると、幼^{おさなご}子^ごは
母^{はは}マリヤと 共^{とも}に お^かれ^たら
ひ^ふれ伏^{おさなご}して 幼^{おさなご}子^ごを お^たが^み、宝^{たから}の
箱^{はこ}を 開^あけて、黄^{おう}金^{ごん}、乳^{にゅう}香^{こう}、没^{もつ}薬^{やく}を
お^{おく}く も^{もの}の 贈^{おく}り物^{もの}と して ささ^さげ^た。 ¹⁶



乳香は高貴な香水またはお香で、祭司に与えられるものだった。金は、王であることのしるしだ。この2つの贈り物は、イエス様が王であり、神の御子であるというしるしなんだよ！

没薬は、お葬式の時に使う香水だ。この贈り物は、イエス様がわたしたち人類を罪から救うために死ぬことを意味していた。

さて、神様は夢の中で博士たちに言われた。「ヘロデ王の元へ帰ってはいけない。ヘロデは、イエスをおがみたいのではなく、彼が偉大な王になって自分の国をうばい取るのではないかと案じ、しつとしていたからだ！」

それで、博士たちはじゃ悪な王ヘロデを無視し、ほかの道を通って帰ったんだね。一方ヘロデは、博士たちが帰って来るのを今か今かと待っていたが、彼らはもどって来なかった。

彼らが帰って行くと、主の天使が夢でヨセフに現れて言った。「起きて、子供とその母親を連れて、エジプトに逃げ、わたしが告げるまで、そこにとどまっていなさい。ヘロデが、この子を探し出して殺そうとしている。」

ヨセフは起きて、夜のうちに幼子とその母を連れてエジプトへ去り、ヘロデが死ぬまでそこにいた。¹⁷





エジプトまでは、ベツレヘムから
やく 約300kmも ある。昔は ながたび 長旅だった。

けれども 神様は、ヘロデ王が 生きてい
あいだ 間は、そこなら イエス様が 安全だと 知って
おられたんだね。

ヨセフは ただの 大工だったのに、
どうやって そんな 長旅の 費用を まかなえたと
おも 思うかい？ 旅するには、お金が かかるからね！
ロバに 乗るんだったら、きつぷを 買う 必要は
ないけど、旅を するには 食料や 旅行用品が
必要だ。きつと、テントや その他の キャンプ
用品も 持って行っただろうしね。

それに、彼らは 見知らぬ 国で 外国人として
なんねん 何年か 暮らさなければ ならなかった。仕事も
なかっただろうし、最初は 言葉も 話せなかった
だろう。でも、生活していくには お金が
必要だよ。

覚えてるかい？ 博士の 1人が、イエス様に
きん 金の 贈り物を ささげたよね？ それで、生活費は
じゅうぶん あったんだ。神様の なさることは
すばらしいね？ 彼らの 世話を し、必要な
ものを ことごとく 供給してくださったんだよ。

さて、ヨセフと マリヤが イエス様を 連れて
ベツレヘムを 出た 後、ヘロデ王は 兵隊たちに、
ベツレヘムへ 行って イエス様を 探して 殺せと
めいけい 命令した。だけど 神様が ヨセフに 警告して
くださった おかげで、ヘロデ王の たくらみは
しっぱい 失敗に 終わったんだ。

数年^{すうねん}後^ご、神様^{かみさま}はヨセフに言^いわれた。「ヘロデ王^{おう}は死^しに、危険^{きけん}は過^すぎ去^さった。もうナザレへ帰^{かえ}るがよい。」それで、彼ら^{かれ}はナザレに帰^{かえ}ったんだ。
彼ら^{かれ}は、かなり長^{なが}い間^{あいだ}いなかったよね。それで、家族^{かぞく}も友だち^{とも}もきつと、いったい彼ら^{かれ}に何^{なに}が起^おこったんだろうと思^{おも}っていたら、妻^{つま}が身重^{みおも}の若^{わか}い夫婦^{ふうふ}がベツレヘムへ行^いってしまったと思^{おも}っていたら、何年^{なんねん}もたつて育^{そだ}ち盛^{さか}りの男^{おとこ}の子^こを連^つれて帰^{かえ}ってきたんだ！

イエス様^{さま}はおそらく、エジプトにいた人^{ひと}たちからいろんことを学^{まな}んだらうね。そのころエジプトは、技術^{ぎじゆつ}も文化^{ぶんか}もとても進^{すす}んだ国^{くに}だったからね。エジプトは、神様^{かみさま}がモーセ^{もく}を送^{きよういく}って教育^うを受けさせたところでもあるんだよ。

それによって、エジプトから神^{かみ}の御子^{みこ}が来^くることについての預言^{よげん}が成^{じやうじゆ}就^{じゆ}したんだ。「わたしはわが子^こをエジプトから呼^よび出^だした。」¹⁸

ということで、これが、2000年前^{ねんまえ}の初^{はじ}めてのクリスマス^{ものがたり}の物語^{ものがたり}だよ！そしてすばらしいのは、イエス様^{さま}が今^{いま}でもわたしたちと一^{いっ}しょにここにおられるっていうことなんだ！



神様^{かみさま}がみんなを祝福^{しゆくふく}し、守^{まも}ってください
ますように。また、みんなを他^たの人^{ひと}たちへの
祝福^{しゆくふく}としてくださいますように。そして、
あ^{うた}の歌^{うた}のように、「あなたのすべての
クリスマス^{あか}が、明^{あか}るいものでありますように。」

脚注^{きやくちゆう}：

- 1 ルカによる福音書^{ふくいんしよ} 1:28、新改訳聖書^{しんかいやくせいしよ}
- 2 ルカによる福音書^{ふくいんしよ} 1:30-33参照^{さんしやう}
- 3 ルカによる福音書^{ふくいんしよ} 1:34-35参照^{さんしやう}
- 4 マタイによる福音書^{ふくいんしよ} 1:20-21、新改訳聖書^{しんかいやくせいしよ}
- 5 ルカによる福音書^{ふくいんしよ} 1:36-37参照^{さんしやう}
- 6 ルカによる福音書^{ふくいんしよ} 1:38参照^{さんしやう}
- 7 ルカによる福音書^{ふくいんしよ} 1:42-44、口語訳聖書^{こうごやくせいしよ}
- 8 ルカによる福音書^{ふくいんしよ} 1:45参照^{さんしやう}
- 9 ルカによる福音書^{ふくいんしよ} 1:47-48、新共同訳聖書^{しんきやうどうやくせいしよ}
- 10 ルカによる福音書^{ふくいんしよ} 1:20参照^{さんしやう}、新改訳聖書^{しんかいやくせいしよ}
- 11 ミカ書^{しよ} 5:2参照^{さんしやう}
- 12 ルカによる福音書^{ふくいんしよ} 2:1-7を読んでね。^よ
- 13 ルカによる福音書^{ふくいんしよ} 2:10-12参照^{さんしやう}、新改訳聖書^{しんかいやくせいしよ}
- 14 ルカによる福音書^{ふくいんしよ} 2:13-19を読んでね。^よ
- 15 マタイによる福音書^{ふくいんしよ} 2:6、口語訳聖書^{こうごやくせいしよ}
- 16 マタイによる福音書^{ふくいんしよ} 2:11、新共同訳聖書^{しんきやうどうやくせいしよ}
- 17 マタイによる福音書^{ふくいんしよ} 2:13-15参照^{さんしやう}、新共同訳聖書^{しんきやうどうやくせいしよ}
- 18 ホセア書^{しよ} 11:1、口語訳聖書^{こうごやくせいしよ}